



## GC 認定二次試験の対策と心構え

# 評価官はココを見ている！！

GC 認定試験では、グローバルコミュニケーターに求められる語学力自体はもちろんのこと、語学力を生かした様々な実践力も同時に評価し、これからのグローバル人材として活躍できる包括的なコミュニケーション能力を判定します。

では、評価官は何を見ているのでしょうか？パートごとの試験手順と評価ポイントは次のとおりです。

### ■Part A: 面接試験

- ① 係員の誘導で面接室に入ります。入室時に面接官による氏名の確認、続いて着席の指示があります。



入室時から評価開始です。氏名確認から着席までの短い時間に相手に与える第一印象が、特に対人コミュニケーションの現場で重要視されるという意識をもって、的確な状況判断をしてください。

- ② 面接官が試験の手順と注意点を説明しますので、集中して聞きましょう。不明点は面接官に質問できます。
- ③ いよいよ試験問題に入ります。実際のビジネスシーンで起きたある事例が、英語の音声で再生されます。最初の Question は、聞き取った内容の概要を自分の上司に日本語で報告することです。準備時間は 30 秒、発表時間は 1 分間です。



ポイントは、的確な状況判断のもと、指示されたことを過不足なく達成することです。的確な語彙や表現が選択できていますか？相手にとって分かりやすい報告になっていますか？

- ④ 続いて、面接官が課題音声に関連して英語で質問しますので、今度は英語で答えます。



良質な意思疎通を図るための大前提は、質問内容とその返答がしっかりとかみ合っていることです。その上で、評価者は、話が論理的に構成されているか、相手の理解度への配慮があるか、相手が混乱するほどの語学的なミスがないか、などの観点から全体を評価します。さらに、設問ごとに、情報が正確か、論拠が明確か、説得力があるか、自分の考えを積極的に発信できるか、建設的な解決策を提案できるか、といった観点で評価します。

- ⑤ 面接官の試験終了の指示で、Part A は終了です。退室後の注意点を聞いてから退室します。



面接試験は退室するときまで継続していることに注意しましょう。最後の Question 終了時が面接試験評価の終了ではありません。有意義で友好的な意思疎通が図れたという印象を相手に確実に与えるための配慮は、退室するまで保つようにしましょう。

## ■Part B: 筆記試験 ※Part B はどこから解答してもかまいません。

- ① 用語・単語試験では、日本語は英語の、英語は日本語の訳語を解答用紙に記入します。



ポイントは、「知識としての語彙力」、つまり語彙力を知識力・教養として評価する点です。自分の専門外の分野も含め幅広い知識を有することが、グローバル人材としての「教養」であるとの考えに基づいています。

- ② 実際のビジネスシーンで起きたある事例が日本語でプリントされている課題文を読みます。関連設問が日本語で出題されますので、答えをすべて英語で解答用紙に記入します。



対人コミュニケーションでは、双方に解釈の相違が生じた場合、その場で訂正や修正が可能です。しかし、文章によるコミュニケーションでは、読み手の受け止め次第で、いかようにも解釈されてしまうリスクがありますので、「相手に意図を誤解なく伝える」ことが最も重要です。さらに、ビジネスの場面においては、「簡潔」で「分かりやすい」文章力も求められます。また、文書の視覚的な要素も評価の対象に入ります。人に読んでもらうことを意識した、丁寧な文字を書くことを心掛けていますか？